

科目名	人体の構造 I			ナンバリング	ZBA112	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	2単位
代表教員	楊箒隆哉	担当教員					

授業の概要	人体を構成する器官・器官系のうち、骨と筋を中心とする筋骨格系、感覚器系および神経・内分泌系の基本的構造について学ぶ。骨については、分類・構造・発生などの総論と、それぞれの骨の部位や形態的特徴などを学習する。筋については分類・構造などの総論に加えて、それぞれの筋の起始・停止、支配神経、作用を中心に学ぶ。感覚器では、痛覚を含む体性感覚の基本的構造や分布、特殊感覚器の構造などについて学ぶ。神経・内分泌系については、中枢神経から末梢神経に至るまでの構造とその経路、および内分泌を司る器官について学習する。さらに、運動時に、骨、骨格筋、感覚器、神経がどのような連携をなしているかを総合的に捉え、人間の動作に関連する構造的な理解を深める。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトのからだの成り立ちについて系統的な理解ができ、細胞、組織、器官、器官系の基本的な構成がわかる 2. 骨・関節について、その分類と構造の特徴などが理解でき、骨格を構成する骨の名称と部位がわかる 3. 筋肉の分類と各々の特徴がわかり、筋の起始・停止、支配神経、作用等が理解できる 4. 痛覚を含む体性感覚や特殊感覚器の基本的構造とその仕組みが理解できる 5. 中枢神経系、末梢神経系の構成とニューロンなどの基本的な仕組みを理解できる 6. 内分泌系の成り立ちとホルモンなどの生体内調節物質について理解できる 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	ヒトのからだについて立体的なイメージを持つために、教科書だけではなく、図書館にある専門書やDVDなどの視聴覚教材も積極的に活用して予習してほしい。また、各器官の名称やその役割を覚えるために、必ず復習し、生理学などの授業とも連携して学習すると効果的である。						
ディプロマポリシーとの関連	【健康医療科学部作業療法学科のディプロマポリシー】						
	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンイズムと倫理観を身につけている。					
	2	地域に住む孤立しがちな人びとや、心身および生活上の障害を抱えた人びとの個別な健康・医療課題を的確に把握し、子どもから高齢者に至るまでその人らしく生活できるように、その生活支援や就労支援を行うことで、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。					
	3	健康・医療に関わる課題を解決するために、作業療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた作業療法技術を駆使して生活能力の再獲得への支援ができる。					
○	4	健康・医療に関わる作業療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. ヒトのからだの成り立ちについて、細胞、組織、器官、器官系を踏まえた系統的な理解ができる 2. 骨格を構成する骨・関節の名称と部位がわかる 3. 筋肉の分類と各々の特徴がわかり、筋の起始・停止を言える 4. 痛覚を含む体性感覚や特殊感覚器の種類とその基本的構造を説明できる 5. 中枢神経系、末梢神経系の構成とニューロンなどの基本的な構造を説明できる 6. 内分泌系の成り立ちと主なホルモンの名前が言える 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞、組織、器官、器官系を系統的に分類でき、その構造の特徴を役割を踏まえて説明できる 2. 骨を類別して、その特徴を説明できた上で、骨格を構成する骨・関節の名称と部位を説明できる 3. 筋肉の分類と各々の特徴がわかり、筋の起始・停止だけでなく、神経支配との関係や作用についても説明できる 4. 体性感覚、特殊感覚を構成する器官について、名称および構造とその基本的役割を説明できる 5. 神経系の経路とその役割を説明できる 6. 内分泌系の成り立ちに加え、ホルモンの生体内活性物質としての役割を説明できる

成績評価観点	評価方法						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	●	●					60%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート	●	●	●		●		30%
授業態度・授業への参加			●	●			10%

課題、評価のフィードバック	manab@IMUを使用するなどして、個別にフィードバックを行う。
---------------	-----------------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	はじめに	人体の構造で学ぶこと、専門用語についてなどこの授業を始めるにあたって必要な事項のオリエンテーションを行い、解剖学とは何か、解剖学の歴史などを簡単に学習する	
	第2回	ヒトのからだの成り立ち	人体の細胞、組織、器官、器官系について系統的に学ぶ	
	第3回	からだの区分	外部から観察し、触れてわかるからだの構造を学習し、体の区分を知る。また、からだの部位や方向を示す用語について学習する	
	第4回	運動器の構造1	骨および関節の構造について学ぶ	
	第5回	運動器の構造2	全身の骨格を構成する骨の名称と骨格構造について学習する	
	第6回	運動器の構造3	筋の種類と各々の特徴を学び、骨格筋の構造を知る	
	第7回	運動器の構造4	全身の骨格筋の名称と付着の仕方を学ぶ	
	第8回	神経系の構造1	神経系の全体像を学習し、ニューロンとグリアの特徴を学ぶ	
	第9回	神経系の構造2	脳の立体的な構造を学び、その区分を理解する	
	第10回	神経系の構造3	前回到続き、脳の構造について学び、脳神経系の構成を理解する	
	第11回	神経系の構造4	脊髄の構造について学習し、脊髄神経系の構成を知る	
	第12回	感覚器系の構造1	感覚器の種類とその特徴を理解し、特に、痛覚を含む体性感覚について学ぶ	
	第13回	感覚器系の構造2	特殊感覚の種類を知り、そのうち、視覚および聴覚について学ぶ	
	第14回	感覚器系の構造3	特殊感覚のうち、平衡覚、嗅覚、味覚について学ぶ	
	第15回	内分泌系の構造	内分泌系の全体像をりかいし、内分泌器官とホルモンについて学習する	
		試験	期末試験を実施する。また、授業外でレポートを課す。	
授業の進め方	教科書に基づいた講義を主体とするが、必要に応じて視聴覚教材を用いた授業や、実体模型を用いたグループ学習などを行う。			
授業外学習の指示	図書館等で、人体、解剖学に関するDVDの視聴や、カラーアトラスなど専門図書による予習(90分)・復習(90分)をして授業に臨む (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	シリーズ監修:奈良 勲/鎌倉 矩子, 編集:野村 巖, 標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 「解剖学」 第4版 2015年01月発行, 定価 6,480円(本体6,000円+税8%), ISBN978-4-260-02008-4
参考書	リチャード・L・ドレイク 著 「グレイ解剖学」原著第3版(日本語版) ISBN 13-9784860343064, 12,960円(税込) F.H. Netter 著 「ネッター解剖学アトラス」原書第6版 ISBN: 978-4-524-25967-0, 10,800円(税込) 坂井 建雄、河原 克雅 「人体の正常構造と機能」全10巻縮刷版(改訂第2版)ISBN:978-4-7849-3180-4, 19,440円(税込)
参考URLなど	授業中に紹介する
その他	